

母として後継者を想う！

広酪西部ミルク会(会長砂子靖子)は研修会・親睦会を開催し、会員他十三名が参加された。砂子会長は「乳価は三円上がったが、飼料代高騰で経営は大変苦しい。皆さん頑張らましよう」と挨拶された。

研修会では、寺道弘生所長(広酪西部事業所)からの最近の酪農情勢と北広島町への窮状支援要請についての説明を受けて意見交換を行った。

懇親会では「母として独身者の婚活を何とかしたい」「後継者の土台をしっかりと安定するような酪農になれば！」との意見があった。

閉会にあたって、柿原ちとみ副会長が、「今日はしっかりと笑いも涙も出させて頂きました。新年互礼会でまた元気に会いましょう」と締めくくられた。



12/7 北広島町「養老温泉」

「聖域必ず守って」

TPP交渉

千代田町酪農協議会(会長西原嘉一)は、会員他関係団体十五名が参加して研修会・懇親会を開催した。



研修会では、鈴木道弘代表理事専務(広酪)による酪農情勢報告と、組合が進めるWCSを利用したTMRセンター統合整備についての説明を受けた。この事業には会員も注目され

ており、「当地区では広酪TMRの利用者が少なく、推進においては特に説明をされたい」との要望があり、これに対して、「今後、パンフレットを作成し説明会を開催する」と回答した。その他、年々組合員が減少する中で、旧町単位での活動から北広島町一体の組織活動が提案され、今後、他団体と検討を進めるべきとの意見があった。

その後の懇親会では河井克行代議士も出席され、TPP交渉に触れて「他国からは大変厳しい要求が出ている。詳しい内容は述べられないが聖域は守る」と伝えられた。会は今年五月に酪農廃業された小田会員の慰労を兼ねて和やかに終わった。

西部楽酪会

12/13 西部事業所

研修会の充実でレベルアップを！

西部楽酪会(会長砂子拓也)は親睦会を開催し、会員9名が参加した。砂子会長は「厳しい酪農情勢であるが、厳しさに負けず来年も頑張ろう」と挨拶され、一年を振り返り、来年は更に研修会等を充実させ、自分たちの知識・技術向上に努めよう」と語り合った。

女性会「ときめき隊」

12/12 広酪本所会議室

初の開催!! 手始めに「自己紹介ビンゴ」で 大盛り上がり

女性会「ときめき隊」は初めての会合を開催し、県内酪農家の女性十四名が参加された。この「ときめき隊」は、池田牧場(府中市上下町)の小川香奈さんの呼びかけで、若い女性同士の交流の場として活動したいと始めて始められた。

今回は初めてとあって「自己紹介ビンゴ」を企画された。これには参加者が各自自分の名前を記入して抽選箱に入れ、その抽選される八名を予想して全員があたった時点で景品を獲得できるというもの。全員の自己紹介と質問で終了時間を迎える程に盛り上がった。



今後の活動は、参加者から活動希望内容のアンケートをとって考えることとして、四月上旬には花見会を開催することとした。終わりに参加者は互いに電話番号を交換するなどして笑顔で散会した。

今後、県内の酪農家の出会いと情報交換の場として、参加を呼びかけて、幅広い交流に期待したい。

東城酪農振興会

12/25 和田慎吾牧場

年末「畜魂祭」から 新たな気持ちに

東城酪農振興会(会長和田慎吾)は、畜魂祭を和田慎吾牧場で行い、その後、「新菜苑」に会場を移し親睦会を開催した。

畜魂祭は地元の横山宮司によって厳かに執り行われ、会員らが御霊への感謝と健康を祈願した。その後は会員の家族や従業員も参加しての総勢十八名による懇親会を行った。

和田会長は、年の瀬にも関わらず多数の参加に謝辞を述べ、「乳価値上げは三円に止まったが、我が振興会は四会員と少数ではあるものの活気に満ち、総日乳量二十トンを超えることが出来る地域である。今年度の反省を活かして目標に向けて頑張りましょう」と挨拶された。



千代田町酪農協議会 12/16 専教寺

大朝酪農振興会 12/18 円立寺

北広島町内の2か所で家畜供養祭

家畜追悼の法要が千代田地区は専教寺、大朝地区では円立寺で行われた。それぞれの地域から畜産農家が参加され、牧場経営に貢献した家畜を弔い、感謝すると共に今後の酪農発展を祈願された。

「飼料イネ」利用に期待

あきたかた酪農振興会(会長泉秀利)は研修会・親睦会を開催し、18名が参加した。泉会長は「今年も酪農家にとって厳しい1年であり、円安で乾牧草等の輸入物が高騰し乳価値上げが霞んだ。幸いにして子牛販売では高値水準の維持で、経営の助けになっている。今日は飼料イネ(WCS)への利用について、会員意見を聞かせて貰いたい」と挨拶され、飼料稲については引き続き検討することとされた。また、山県家畜診療所の中谷啓二所長からは「来年度は共済組合と合併しますが、仕事内容は今まで通りですのでこれからも宜しくお願います」と伝えられた。

懇親会では、廃業された山根温子組合員のご主人から皆さんに御礼と感謝が述べられた。

会員からは、今後の酪農経営で暗いトンネルからの光明を見いだそうと必死に出口を模索する話題があり、来年こそ「酪農に幸あれ」と願いが込められていた。

若き酪農経営者の思いを組合運営に！ 広酪役員との意見交換

東部管内青年部(部長 山本雅陳)は、東部管内の広酪役員との意見交換会を開催し、青年部から十一名、組合から岩竹重城組合長をはじめ、鈴木道弘専務、川角晴俊理事、和田慎吾理事、樽好美子所長、竹ノ内寛治主任を含め十七名が意見交換を行った。

冒頭、山本雅陳部長は組合長、専務、理事に対して、本日の出席への謝辞を述べ、「平素から思っていることが互いに言えるような会となるよう有意義な時間を過ごしましょう」と挨拶された。

岩竹組合長からは「組合の上期仮決算状況を見ると目標乳量が未達の状況にあり事業計画の達成も厳しい状況にある。そのため組合員の経営状況も厳しいものと推測する。下期に向けては生乳生産にしっかりと励んで貰いたい。乾牧草においても数年前と比べて日本の輸入数量よりも隣国・中国の購入量が増え、飼料情勢は益々厳しさを増し飼料代が下がることはない。そのためTMRセンターの統合整備を実現し、組合員への安価で良質な飼料提供が組合の使命であ

ると考えている。月々の乳代精算結果を見ると、足腰の強い組合員は支払乳代も多く、体細胞数ペナルティで無駄な金銭負担をしていない。こうした事を念頭において、皆さんには、「酪農家にとって、乳量は給料であることをしっかりと認識して、酪農経営にあたってもらいたい」と参加者に呼びかけた。

意見交換会では、①TMRセンターの統合、②組合執行体制、③育成事業や3M事業による後継牛対策、④酪農ヘルパー体制、⑤職員数や退職金、⑥共進会の在り方、⑦倉庫やHARUの運営の在り方等の多岐に亘る質問や要望等があったが、管内の酪農家戸数の減少は集乳コストの上昇につながることもあることから、「一人が儲ければそれで良いということではなく、全員で生き残っていこう」とする意見でしめくられた。

最後に内海利彦副部長が「懇談会の雰囲気がとても良かったことは、組合長や専務、理事への期待の現れである。今後の取り組みに期待したい」と述べられ閉会した。